

秋田駒ヶ岳

2012年10月13・14日

リーダー：豊島 泰／佐藤 きよみ



↑乳頭温泉郷 鶴の湯入り口にて。

秋田駒ヶ岳 リーダー：豊島 泰

今回は、バスでの移動距離が往復 1200 キロ超におよぶ、「遊友」でも例のない山行だったと思われます。このため、(勿論リーダー資質の問題も否めませんが) 色々な点で、不手際がありましたことをお詫びします。以下に問題点を記載し、今後の糧したいと思います。

1) 「角館」は行く必要があったか？

- ・旅程全般にわたり、もう少し詳細に春日部観光他と打ち合わせが必要でした。
- ・行程がドライバーに伝わっていませんでした。
- ・わずか1時間で、残念ながら「祭り」もバスとせざるを得ませんでした。
- ・じつは、直前に思いつきました。なので下調べや、観光プランもありませんでした。

2) 山行ルートの問題

- ・危険でした。
- ・歩行時間の見積りが甘すぎました。
- ・8合目までの道路通行につき、シャトルバスの後ろに付いて運行・・・との情報は得ていましたが、ドライバーへ伝えていませんでした。
- ・山から降りて、8合目駐車場で(トイレ利用について)判断がブレました。

3) 会則の徹底など

- ・「予定人数に達したら募集締め切り」の旨の公示をしていませんでした。
- ・参加申込みについて、「誰々さんに言ってある」とかは不可としたいです。必ず本人が、リーダーへ申告いただきたい(参加希望もキャンセルも)
- ・なお、リーダー複数の場合、参加希望の申告先は一名に統一すべきでした。
- ・基本、携帯メールで統一したい。・・・電話だと誰からだったか忘れてしまう可能性があるため。



↑下りの難所。かなり危険でした。

飽きなかった秋田駒 饗庭 和重

長いバス旅も、陰の努力と創意工夫で楽しめました。感謝。乳頭温泉のたたずまいにしばしタイムスリップした感じ。秋田駒の懷に抱かれた温泉は、山の雄大さにも劣らぬぬくもりを呈していました。

今回の登山では体調の不安を露呈させられ、「ここで待っています」ということばが口からついて出たくらい。3千メートル級の山に初心者が行って呼吸が苦しくなり足が進まない、そんな感じ。一瞬脳裏に映ったのは(迷惑はかけられない)の言葉でした。あとこの先何回いけるのか。がんばります。

←紅葉を眺めながら、秋田駒を目指す。



10月山行「秋田駒ヶ岳」に参加して

10月の山行は、13日（土）に秋田／角館を見学して乳頭温泉郷／鶴の湯に泊まり、翌14日（日）に秋田駒ヶ岳に登ると云う計画です。出発の前の晩に秋田県仙北市の天気予報を見ると曇り時々雨で雨の確立が80%でしたのでお天気を心配しながらの出発です。朝5：45に千間台組8人が乗車し、6：00に春日部組12人が乗車し、参加者合計は20人です。リーダーは豊島さん、運転手は三ツ木さんです。いつもは久喜ICから東北道に入るのに、何故か今回は岩槻ICから入りました。長旅の始まりです。8：00に宇都宮IC、9：20に郡山JCT、10：40に村田JCT、12：40に北上JCTを通過して秋田道へと入り、13：50に大曲IC、角館に着いたのが14：45でした。予定よりも2時間近く遅い到着です。



14：45～15：45までの1時間ほどですが、歴史ある武家屋敷と桜並木が美しい「みちのくの小京都」と言われる角館を見学しました。丁度この日は、2台の曳山（ひきやま）をぶつけ合う「山ぶつけ」という祭りが行われていて賑わっていましたが、時間の都合上、曳山をぶつけ合うところは見られませんでした。武家屋敷は、入場料300円を払って石黒家を見学しましたが、400年近く前の建物、庭の植木、鎧、刀、書物や道具

類などがあり、当時の様子を垣間見ることができました。石黒家と青柳家の見学が有料で、他の屋敷は無料です。そこで無料見学できる岩橋家にも入ってみました。岩橋家の庭には天然記念物に指定されている大きなカシワの木があり、その大きさに驚きました。

角館見学を終えて、今日の宿泊場所である、秘湯・乳頭温泉郷／鶴の湯へと向かいました。温泉到着は16：50です。小雨がぱらつき、薄暗くなっていて、宿には明かりが灯ってありました。夕食まで2時間ほどあります。早速入浴です。風情のある露天風呂で、いかにも秘湯といった温泉でした。温度はややぬるめでしたので小雨の中、ゆっくり入浴しました。夕食は全員そろって広間で食べました。

鳴原さんが古希を迎えたので、夕食に先立って記念品の贈呈もありました。岩魚の塩焼き、芋煮鍋など料理も美味しくいただき、ビール、日本酒、焼酎、紹興酒とお酒も十分飲みました。夕食の後は、また皆で談笑しながら遅くまで飲み、再び温泉に浸かり、休みました。

翌14日、目を覚ましたら、まずは天気を確認です。雨は降っていません。天気はよさそうです。安心して、温泉に入りました。そして朝食は、ヤマメの甘露煮、豆腐、なめこ、山芋など・・・ご飯をおかわりして頂きました。7：30に宿を出発して、8：10に秋田駒ヶ岳八合目に到着しました。準備支度、体操をして、8：30登山を開始しようとした時、人数をチェックしたら1人足りません。ゲスト参加の松島さ

んがいないのです。我々が全員で準備体操をしている時に、もう皆が出発してしまったと勘違いして登り出していたのです。大声で名前を呼び、手を振ったので気が付いて駆け足で戻って来られました。こんなハプニングもあって登山開始です。山の上の方は時々ガスがかかったり消えたりですが、太陽が出ていて雨の心配はなさそうです。登山道も歩きやすく、9：10に片倉岳展望台、9：45に分岐に着きました。ここで男岳に登るか、男女岳に登るかということで、男岳はあきらめて男女岳に登る事になりました。男女岳は目の前に見えております。分岐→阿弥陀池→阿弥陀小屋→男女岳山頂→阿弥陀小屋、およそ1時間でした。この後は横岳には行かず旧道を通って下山することになるのですが、旧道はがけ崩れなどがあって、新道を行くようにとの看板がありました。しかし、大丈夫という他人の意見を鵜呑みにして近道の旧道を選びました。歩き始めは何でもなかったのですが、しばらく進むと大変な難所が待ってありました。斜面の道が崩れて通りにくくなっていました。藤井さんのサポートでなんとか全員が無事に通過できましたが、肝を冷やしました。しかし、この旧道の景色は最高でした。11：50に駒ヶ岳八合目下山し、盛岡へと向かいました。盛岡では、びよんびよん舎という店で盛岡名物の冷麺を食べました。後は帰るだけです。また長旅の始まりです。14：50に盛岡ICを出発して一路、春日部へと車を進めました。21：45に岩槻IC、春日部には22：00、千間台には22：30に帰ってきました。千間台組のうち5人はいつもの中華料理店で反省会をして、私に家に着いた時は0時を5分ほど過ぎておりました。運転手さんの話では今回の走行距離は1,270kmだそうです。秋田は遠いです。お疲れ様でした。そして、豊島リーダーはじめ皆様ありがとうございました。〈戸邊 茂雄〉

→幸運にも角館でお祭りを
見学できました。



←最大の難所を越えて
思わずバンザイ！



スリリングな帰りのコースはこんな絶景も楽しめました。↓



↑秋田駒ヶ岳の男女岳山頂にて

